

# 大東文化大学 博士学位論文審査報告書

氏名	額日登塔娜
学位	博士（アジア地域研究）
学位記番号	甲第159号
学位授与年月日	平成31年3月20日
審査研究科	アジア地域研究科
論文題目	内モンゴルの牧畜経済と階級構造の動向分析 —ホボトシャラ旗の事例を中心として—
論文審査委員	(主査) 大東文化大学 篠田 隆 (副査) 大東文化大学 新納 豊 (副査) 大東文化大学 福家 洋介 (副査) 大東文化大学名誉教授 原 隆一

## 1. 論文審査の過程

この部分に掲載されている内容については、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨に関する箇所では無い為、加工がされておりますので、ご了承願います。

この部分に掲載されている内容については、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨に関する箇所では無い為、加工がされておりますので、ご了承願います。

## 2. 論文の要旨

本論文の目的は、転換期にある中国・内モンゴルの牧畜業を、ホボトシャラ旗を事例として、牧畜経済と階級構造との関わりの視点から分析し、問題の析出を試みることにある。

ホボトシャラ旗は内モンゴル自治区の代表的な牧畜地域であり、生態環境改善の面で中国中央政府からもっとも注目されている地域である。本論文は 2011 年および 2014 年の 2 度にわたり調査対象地で 40 世帯の牧畜民を対象として実施したアンケート調査と文献調査に基づいている。

本論文は、序章、第 1 章から第 7 章、終章、参考文献、資料により構成されている。

第 1 章「先行研究の動向」では、中華人民共和国成立以降から現在までの(1) 環境問題に関する研究、(2) 政策に関する研究、(3) 牧畜経済の変動と発展に関する研究を批判的に検討し、本論文における課題設定を明確にした。先行研究のなかでも、海山の牧畜経済変動研究は筆者の牧畜経済の動向分析と、韓念勇の借金分析は筆者の借金問題分析と密接に関わっているので、これら 2 文献については詳細に批評し、筆者の観点との異同を明確にした。

第 2 章「牧畜経済の長期的変動」では、内モンゴルの牧畜経済を、労働、土地、家畜の 3 つの資源の相互関係の総体として捉え、調査地域であるホボトシャラ旗とホンゴルウーラソムの 1949 年から 2010 年間の、人口変動、家畜頭数変動と土地面積変動について検討

した。また、長期的な変動のなかで、筆者が調査を行った 2011 年と 2014 年における牧畜経済の特徴を確認した。これにより、調査対象世帯の社会経済変化を、牧畜経済の長期変動のなかに位置付けることができた。

第 3 章「労働組織、家畜構成と土地経営の変動」では、牧畜経済と階級構造の分析に収入 4 分位階級の方法を適用した。調査対象の 40 世帯を収入の高い順に、第 1 位階級から第 4 位階級に区分し、4 収入階級の労働、土地、家畜資源間の関係に着目して分析を行った。2014 年の第 2 回目の調査においても 2011 年と同じ質問表を使用し、インタビューを行った。2 回の調査の対象世帯数各 40 世帯中 20 世帯は共通の世帯なので、これらについてはパネルデータとしても活用した。2011 年から 2014 年までの三年間に牧畜経済は政策・市場経済の変動のなかで低迷し、牧畜民は家畜経営だけで生活を維持することが困難になりつつあることを検証した。

第 4 章「家畜産物、生産手段の変容」では、家畜、羊毛とヤギの毛などの家畜産物の販売と飼料購入の変動、燃料消費の比較、農具所有などの生産手段における変容について考察した。家畜販売額は増加したが、飼料購入費などの家畜関連支出額も急増した。また、羊毛販売が牧畜産業の重要な収入として欠かせない役割をしてきたが、近年は羊毛の価格が低迷している。ヤギの頭数も減少し、ヤギの毛による収入も減少した。このように、家畜や畜産物の価格の低迷、家畜飼料代の高騰により、家畜収入は減少した。

第 5 章「世帯支出の増加・所得の減少と借金問題」では、牧畜 40 世帯の飼料購入、土地借入の費用の高騰により支出が増加し、所得が大幅に減少したことを明らかにした。さらに、調査対象の 40 世帯の借金についての詳細な情報を収集し、牧畜地域において借金生活を送る世帯が増加し、社会問題になっていることを検証した。牧畜民は銀行など金融機関から借金をすることによって、高騰化する飼料代や土地借入代に充てなければならないほど資金繰りが困難な厳しい現実直面している。特に、大学に通う学生がいる牧畜世帯、病人がいる牧畜世帯の借金額は大きく、金融機関からの借金では膨大な出費を賄えないため民間の高利貸しから借金をする世帯も増えてきた。牧畜世帯の借金生活に伴う貧困化が今回の調査で新たに確認できた現象であった。

第 6 章「パネルデータにみる牧畜経済の変容」では、20 世帯のパネルデータの散布図を基に、全体の散ばりと個別世帯の動向を検討し、2011 年と 2014 年の 3 年間に収入階級構成に大きな変動が生じたことを検証した。この 3 年間に、世帯単位の労働力は減少していた。土地経営面積、牧畜頭数、世帯収入の増加した世帯数は多かったが、飼料購入と土地借入額などの支出もこの間に 2 倍以上に増加したため、牧畜民の所得は増加しなかった。

第 7 章「事例研究にみる階級の変化」では、乳製品業、モンゴル服飾工場と畜農業有限会社、小規模旅行会社、タクシー運転手などの副業について、参与観察を行った。2011 年には副業を行っていた世帯のほとんどは上位収入階級に属していた。しかし、2014 年には副業による収入が減少し、副業を行っていた世帯の階級順位も下がっていた。

終章では、各章の内容を要約したうえで、本研究の特徴として、(1) 牧畜経済の長期的

変動（1949～2010年）について、先行研究を批判的に検討し、独自の時期区分を行ったこと、(2) 実態調査を行った2011年と2014年の間に、牧畜経済の構造的変化が急速に進んだことを階級構造の変動を軸に検証したこと、(3) さらに、その構造変化が零細小規模酪農家の家計に深刻な影響を与えていることを借金問題の調査をとおして実証したこと、をあげている。最後に今後の課題について、(1) 内モンゴルの他地域との比較研究、(2) 借金問題のさらなる究明、(3) 牧畜地域の肉・乳製品の市場開発についての総合的な分析・研究、をあげている。

### 3. 論文の特色および評価

審査委員会は本論文を審査するにあたって、問題意識、論文構成、論理性、独創性、有用性、新規性などの観点から、申請者の学術的貢献について総合的に評価した。この基準にしたがって審査をした結果、本論文には、以下のような長所を認めることができた。

第1に、筆者が内モンゴルの家畜経済の動向に深い関心と問題意識を持ち、現在の内モンゴルの家畜経済および牧畜民の就業・収入変動に関して研究テーマを設定している点が評価できる。その背景には、牧畜民の出自である筆者が、日本への留学後も、自身の家族、親族、故地の地域住民の就業・収入の変動に関して強い関心を抱き続けてきた事情がある。

第2に、本研究では、文献調査と実態調査が効果的に組み合わせられている。例えば、調査地の牧畜経済の長期変動（1949年から2010年）について、先行研究を批判的に検討し、独自の時期区分を行ったうえで、その時期区分のなかに自ら実態調査を行った2011年と2014年の調査結果を整合的に位置付けることに成功している。この結果、2011年と2014年は、牧畜経済の転換期として研究分析上、大変重要な時期であったことが確認できた。

第3に、分析手段が牧畜経済の階級構造の変動を捉えるうえで有効であったと評価できる。本論文では、牧畜経済の中でもっとも重要な3資源である土地・労働・家畜資源の相互関連を牧畜収入4分位階級の分析手段で検討した。筆者は、調査データの牧畜収入4分位階級別の分析で、飼料と土地借入額の高騰により、実態調査を行った2時点間で牧畜経済の上位階級の所得が下位階級の所得を大きく下回っていることを確認した。これは今回の調査の大きな発見であると同時に評価すべき学術的成果でもある。

第4に、牧畜地域に浸透している借金問題についても、既存の研究のレベルを超え、学術的な貢献を行ったと認められる。筆者は、牧畜収入4分位階級の状況と借金に関する個別世帯データの相互関連を分析した。借金については正確な情報の収集は困難であるが、2011年から調査を継続しており調査対象世帯からの信頼をえることができていたので、精度の高い借金情報を収集することができた。牧畜経済と借金との関わりを明確にできたことも、本調査から得られた重要な知見のひとつである。

本論文には以上のような長所が認められる一方で、いくつかの問題点や課題もある。審査委員から出された指摘を以下に示す。

(1) 労働、土地、家畜の3つの資源の相互関係の分析では個別資源間の分析だけではなく、総体としての変動をより深く捉えてほしかった。また、4分位階級は収入階級でのみ設定したが、所得階級や土地規模、家畜規模の4分位階級を設定し、それら相互の関連まで分析できれば内容がさらに深まったであろう。

(2) 「パネルデータにみる牧畜経済の変容」では、20世帯のパネルデータの散布図を基に、全体の散ばりと個別世帯の動向を検討しているが、パネルデータの利点が十分に生かされていない。生かすためには、個別世帯にかかわる補足情報がさらに必要とされる。せっかく収集した情報があるのに、十分に活用されていない箇所がいくつかみられた。

(3) 「世帯支出の増加・所得の減少と借金問題」では、調査対象の40世帯の借金についての詳細な情報を収集している。非常に価値の高い資料であるが、借金の理由について、より深堀できれば、さらに独創性のある章にできたであろう。

(4) 調査地域の牧畜業世帯の40世帯の質問票調査では、土地、労働、資本の3資源と4階級分類を行っているが、外側から見える量的調査データが多く、現地密着型インタビューによる質的情報が少ない。数値データは短期間でのスポットの数値に限られ、その限られた数値データの分析に依存しすぎたきらいがある。

(5) 図表をさらに見やすくする工夫が必要であった。たとえば、クロス表や平均表などは、グラフ化するなど論点に直接かかわるデータのみをわかりやすく表示したほうがよかった。

以上のように、本論文にはパネルデータの分析法、図表などの表示法、実態調査に基づく質的データの使用法、分析の厳密性と論理性の面で、改善すべき課題が残されている。このように、いくつかの課題を残しているものの、従来の内モンゴルの牧畜経済と階級構造の分析に対して文献調査と実態調査の両面で新たな貢献をなす成果であり、博士論文として十分な水準を満たしていると認められる。

#### 4. 結論

以上の結果を総合して、本審査委員会は全員一致で、額日登塔娜氏の学位請求論文が博士（アジア地域研究）の学位に相応しい水準の論文であることを認める。